

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

ΚΟΣΜΟΣ

特集 保存版 調査研究のための
雑誌利用法



上原理美子さん画（通信教育部国文学科4年）

「雑誌」とつきあうために

★ ★ ★ ★
小林 正夫

社会で一般に「雑誌」といえば、毎度おなじみ落とし紙の原料ですが、図書館内や研究者の間では、「雑誌」とは「マガジン」ではなくおもに「ジャーナル」(学術雑誌)というお役所用語は後者の類義語です。図書館におけるマガジンとジャーナルの差別は歴然としていて、ジャーナル類は在庫がたまると製本されて書庫に入れてもらえませんが、一般にマガジン類のほうは哀れ廃棄処分されてしまいます。社会通俗の資料として古い週刊誌を閲覧したいときなどは、図書館を選ぶ必要があるのです。

さて、文科系のレポートや論文作成は、主題に関連する資料・文献の収集から始まりませんが、関連する学会誌や大学の研究紀要などジャーナルに掲載された論文(以下では雑誌論文と記す)は、じつは単行本以上の強力な味方なのです。

まず、雑誌論文はその時点での最新の研究成果です。単行本はそれをいくつか蓄積して出版されるほうが多く、最新の動向を知るには本より雑誌なのです。とうぜん、雑誌論文の参考文献表は、その分野の最新の文献情報として有効です。

また、学会誌などに掲載される論文は、制限された長さにきちんと起承転結がまとめられていること、専門の読者に自分の研究の真髓をアピールするために書かれ、多くの場合、採用前に専門家の校閲を受けていることから、雑誌論文といえば、ある程度は質の高さが保証されます。ですから、レポートの参考文献表に単行本だけでなく雑誌論文が入っていると、一人前に論文を読み込んだ、と、それだけで機嫌がいい先生もいます。はじめて論文を書こうとするときは、ぜひ、お手本としていい雑誌論文を一本見つけることをお勧めします。

「学術雑誌は「情報の山」としての性格も持っています。研究論文だけでなく、関係分野の研究動向・注目すべき文献を紹介する「展望論文」や、学会・研究会のお知らせなど、催しの案内なども掲載されています。

すから、本格的に勉強したい人は、学術雑誌をこまめに見ているのです。

このように、雑誌論文はなかなか魅力的なのですが、その検索は異性のパートナー捜しと同様で、根気が要ります。どの雑誌のいつの号に載った論文と捜す対象がはっきりわかっていない場合は、恋人と待ちあわせるようなもので、OPACでその雑誌の所在を検索する(別表②)など、そんなに苦労はありません。大変なのは、特定の相手がいない人で、ナンパ術は次に触れるとして、恋人がいる人も、結婚に進む前にこの相手でもいいか、しっかり考えましょう。お目当ての論文が順調に見つかった人も、次のことは心がけてください。つまり、雑誌のよさは情報の鮮度ですから、その論文が載っていた雑誌のいちばん最新の何号かの目次をチェックするのです。もしかしたら、もっと新しく魅力的な参考論文が、ひそかにあなたを待っているかもしれませんから。目次のチェックなんて面倒なようですが、多くの雑誌は年度最終号に、一年分の総目次が掲載されていることが多く、それを利用すると手間が省けます。

さて、ある分野に関して参考にする雑誌論文を捜したいが、相手がまだ決まっていない時の公式見解は、雑誌記事索引を見よ(別表①)ですが、異性のパートナー捜しでも、声をかけまくるより、友人に縁をとりもってもらうほうが成功率は高そうです。論文捜しでも、まず、研究テーマに近い論文を用意して、その参考文献から捜し始める、それがいいなら、友人・先輩や先生に、その学問分野の定番雑誌名を聞くとか、分野別の文献目録、教科書・資料の参考文献表によく出てくる雑誌名を書き抜くなど、事前にあたりをつけたうえで、それらの雑誌の最新号からチェックしていくほうが生産的ですし、思わぬ研究上のヒントを得られるものです。雑誌記事索引は、それがうまく行かないときの仲介業者のようなものなのです。なお、縁結びに関しては、図書館の参考係は卓越した専門家ですから、おおいに相談しましょう。

やっとおつきあいにまで漕ぎつけてみたらひどい相手だった、ということがあるように、タイトルに惹かれて苦労して捜し出した論文が、「なーんだ、使えないよ、こ

<別表>

雑誌論文検索の書誌類

①ある分野の論文を探したい

国立国会図書館編『雑誌記事索引』(人文社会編/科学技術編で分冊・参考室所蔵) 目次から対象分野をさがして、自分の関心の参考になる論文がないか調べる。3ヵ月ごとの発行であるので、なければ最新号からどんどん以前の号にと、さかのぼって調べていく。

なお、古いものは累積索引版として分野別の分冊になっており、著者名・件名別の索引も可能である。

→対象論文が見つかったら、雑誌名から所蔵館を検索する(②)。

「ジャーナル」ではなく「マガジン」の記事索引としては『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』や日外アソシエーツ『ビジネス誌/総合誌/週刊誌 各記事索引』があるが、いずれも逐次情報ではなく一定期間の累積目録である。

それぞれの分野ごとに文献目録/雑誌記事目録が発行されている場合は、それらを参照する(欧文誌に関しても分野によって文献目録/雑誌論文目録あり)。

②ある雑誌の所蔵先・所蔵状況を調べたい

OPACで東洋大学の所蔵状況は判明する。冊子体では、参考室備え付けの『東洋大学雑誌所蔵目録(1981年版)』がある。

『学術雑誌総合目録』(丸善刊・和文編7分冊)は、東洋大学もふくむ主要大学図書館などの所蔵状況がわかる。国会図書館の所蔵状況は『国内逐次刊行物目録』(同館編)でわかる。いずれも誌名順配列であり、関心分野から関連雑誌名をひくことはできない。

→所蔵先判明後は出向くか、図書館の参考係を通して取寄せる。

んなの」という場合も、ままあります。めげずに理想の相手をめざして、みなさんの

幸運をお祈りします。

(社会学部講師・こばやしまさお)

調査のための雑誌利用法

吉田 泰彦

「ネイチャー」という雑誌を知っているだろうか？ 国際的に権威のある科学系の雑誌であるが、応用化学科四年生の研究成果が掲載されている¹⁾。たとえ学部四年生の研究であっても、その成果が新しく独創的で掲載の価値があると認められれば、専門雑誌に掲載される。いろいろな研究成果は論文の形式で各雑誌に投稿・審査された後に雑誌に掲載されるが、このような研究成果・論文を一次文献(原著論文)という。「研究」というものは、企画・調査・立案して実験を行い、成果がえられて終わりではない。「研究」は、その成果を各種雑誌に発表・公表して、はじめて完了あるいは一区切りがついたことになる。どのように立派な成果であっても、雑誌に発表・公表しないことには世の中に対して何の貢献もしていないことであり、その「研究」は自己満足でしかない。

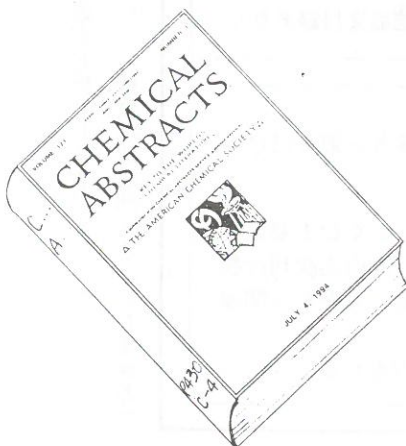
研究に先立って、また研究の最中においても、科学分野での諸先輩が努力して挙げた研究成果を活かすことが必要である。すなわち、それまでに行われた研究成果の調査が必要である。「研究を始めた」はいいが、既にその成果が公表されていたということはよくあることである。このため、自分の研究の方向に関連する研究の調査は必要不可欠である。

どのような分野においても同様であるが、研究において必要なことは、気力、体力、知力とひらめきである。研究の調査においても同様であるが、特に基礎学力と根気は必要である。調査においてまず行うことは、目的分野の基礎的知識を得るために関連する専門分野の学習図書・単行学術書・総説や便覧・辞典等を通読し、その中で引用されている原著論文を調べることである。次に目的分野の専門雑誌を新刊から遡って調査することである。しかしながら、各分野から出版されている学術雑誌は膨大な数にのぼっており、全ての雑誌の検索は不可能である。これら膨大な一次文献の検索を容易にするものとして、抄録・検索誌(二次

文献)も多数、刊行されている。ここでは、工学部分館と応用化学科において利用可能な二次文献について述べる²⁾。

(1) ケミカルアブストラクツ(CA)

CAは材料科学、応用物理、生命関連分野から化学までを含み、収録雑誌数は約一四、〇〇〇誌、一九〇七年からの累積抄録数一、〇〇〇万件を越えている。理工系の研究者においては、必要不可欠な存在である。CAには各雑誌・特許に掲載されている論文のタイトル・著者名・雑誌名等に加えて抄録文(アブストラクト)がまとめられており、入手が困難な学術雑誌の場合には、CAのアブストラクトで済みます場合も多い。年間抄録数が五〇万件にもぼるので、キーワード・著者名・一般事項・化



学物質・分子式・特許の索引が掲載されている。索引検索では、そのCA作製時での索引であることを理解しておくことが重要で、検索で見つからない場合には知識を総動員して別のキーワードを考える必要がある。

(2) 科学技術文献速報

化学・機械・電気・金属工学・土木・建築・応用物理・物理・環境・エネルギー・ライフサイエンスなどの全科学技術分野から国外、約八、七〇〇種、国内八、〇〇〇種の雑誌、レポート、会議資料をCAと同様にまとめている。抄録を含めて日本語でまとめることと、国内誌の件数が多いことが特徴である。

(3) カレントコンテンツ (CC)

六分野に分けて発行されているが、応用化学科では、「物理・化学・地球科学」分野を購入しており、新刊雑誌の目次がまとめられている。また、フロッピーディスクでも供給されており、関連八二〇誌の目次とアブストラクトの検索がパソコンで簡単に行える。速報性が高く、日本では雑誌よりも先に情報が入手できる。

上記三件の二次文献は一次文献に対応したものであり、化合物・材料の合成や物性などのデータを調査するには、あまり適したものではない。ある特定の化合物・材料の合成や物性等の調査の場合には、有機化合物ならば「バイルシュタイン」、無機化合物ならば「グメリン」、化合物・材料の物性ならば「ランドルト」が頼りになる。工学分館においては「バイルシュタイン」と「グメリン」の購入は残念ながら途中で中断されているが、「ランドルト」の購入は継続されており、材料物性の調査に活用して欲しいものである。

以上まとめると、研究の調査に必要不可欠なものは、「基礎学力」、「根気」と「ケミカルアブストラクト」であり、調査の効率をあげるには雑誌の複写を含めて、遠慮なく図書館係員に相談することである。

(1) K.Nakajima, Y.Yoshida, et al., Nature, 331 (14), 153-155 (1988).

(2) 泉美治他、化学文献の調べ方(第二版)、化学同人

(工学部教授・よしだやすひこ)

紹介文献の所蔵一覧

雑誌記事索引：人文社会編

同 .. 科学技術編

大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録

東洋大学雑誌所蔵目録一六年版

学術雑誌総合目録・和文編・欧文編

国内逐次刊行物目録

科学技術文献速報・機械工学編

同 .. 電気工学編

同 .. エネルギー編

同 .. 土木建築工学編

同 .. 化学・化学工業編(外国編)

同 .. 金属工学・鉱山工学・地球科学編(国内編)

同 .. 物理・応用物理編

同 .. 管理・システム技術編

Nature

Chemical abstracts

Landolt-Börnstein Zahlenwerte und Funktionen aus Naturwissenschaften und Technik

Current contents : Physical, chemical & earth sciences

同 .. Arts & humanities

同 .. Social & behavioral sciences

※所蔵館 ①...白山図書館 ②...朝霞分館 ③...工学部分館

『西鶴俗つれづれ』は、元禄八年正月に出版された井原西鶴の第三番目の遺稿で、十八の短編から成る。

伝本は、初版の元禄八年版七本と求版再版本三本とが現存する。

初版初刷本は、大本(二五・八糎×一八・

二糎)五卷五冊。縹色無地表紙。題簽は、

各冊左肩に双辺一七・三糎×三・九糎、巻

一「西鶴俗徒れく」繪入

一「巻二」西鶴ぞく都

れく」繪入二、巻三「

西鶴俗徒然」繪入三、巻

四「西鶴俗つれづれ」繪

入四」、巻五「さいくはく

ぞくつれく」繪入五と

ある。序は、「西鶴俗つれく」、序末は

「元禄八乙亥年／初春吉辰／書林圃」と、

「叙」、叙末「元禄八亥竜集／正月のはしめ

筆を／浪花俳諧堂西鶴巻／團水撮」。刊記

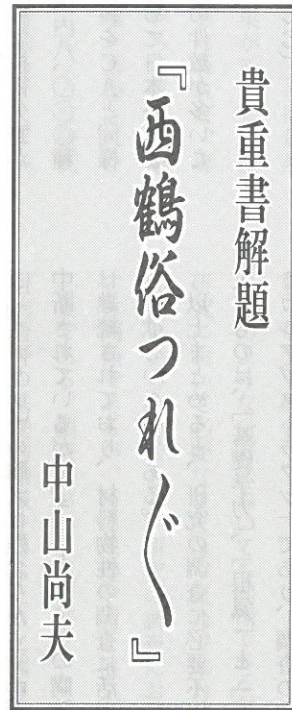
は、「元禄八乙亥曆孟春吉月／書林／京洛

寺町五條上ル町／田中庄兵衛／浪花堺筋備

後町／八尾甚左衛門」。

本学図書館本は、求版再版本で青山為兵

衛により刊行された。吉田幸一先生によれ



ば、再版本は、正徳五年以後享保年中頃の刊行ということである(『近世文学資料類従 西鶴俗つれづれ』解題)。初版の求版本であるから、版式は基本的には初版と同じであるが、相違箇所を中心に簡単な書誌を記す。

書型 半紙本(二二・六糎×一六・〇糎)、

五卷五冊。

表紙 各冊縹色無地原表紙。

題簽 各冊左肩に四周双辺、一七・〇糎

×四・〇糎。文字は初版と同。

序・叙 序・叙題は初版本と同。末は、

「元禄八乙亥年／初春吉辰」と

「元禄八亥竜集／正月のはしめ筆

を」とを共に削除してある。(図1)

刊記 巻五最終丁(十五丁)オモチの本

文末尾の後、一行分の余白に「京

五条通舁屋 青山為兵衛行」を入木する。(図2)

蔵書印 各冊に同様のものもあるも、未詳。

他は、初版本と同じであるので省略する

(初版本の書誌は、『西鶴』△天理図書館版、

前掲『近世文学資料類従』、花田富二夫編

『西鶴俗つれづれ』△桜風社版)に詳しい)。

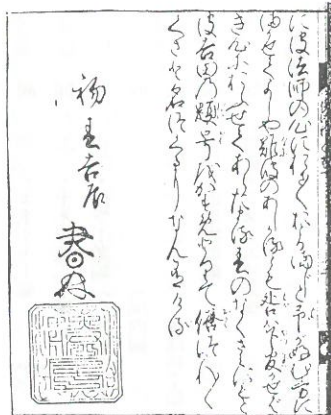


図 1

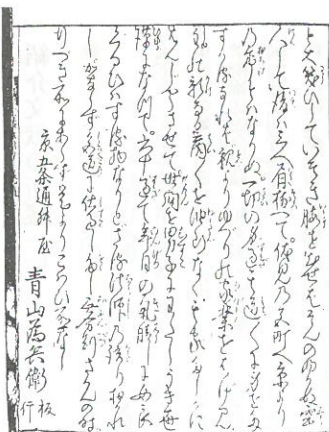


図 2

再版本の版元青山為兵衛は舁屋と号し、

外国の図書館シリーズ
—その10—

パリ第6大学

藤本 佳久

私が一年間滞在したのはパリ第6大学である。

パリ市内の中心部に位置しセーヌ川の間近にあり、いわゆるカルチュラタンという文教地区の一角をなす。理工系の第6、第7大学が共存する校内は、ソルボンヌ大学とは対照的に、幾何学的に配置された近代的な建物が並ぶ。図書館は学内にいくつかに分かれている。その1つに第6、7大学共通の数学関係の図書館がある。

単行本、セミナーノート、レクチャーノートはかなり充実していると言える。更に、数学研究者にとって最も大事な専門雑誌に関しては、バックナンバーも含めて大変充実していたのは満足した。貸出期間は赤いシールが背表紙にある本は2日で緑のは1ヵ月。よく貸し出される本は最低2冊あり赤のが1冊はある。文献の検索は数台設置されたコンピュータで行える。私も

大いに利用した。

入口にはセンサーがあるので手続きしないで蔵書を館外に持ち出すことはできない。したがって自由に鞆を持ち込める。それでも持ち出そうと言う輩がいるのか退出するときはザッと鞆の中を見せる習慣があった。

貸出手続きは非常に簡単である。初めて行くと受付でコンピュータ登録され、ID番号をもらおう。2度目からは本、専門雑誌をもって行って番号を告げるだけで受付係がコンピュータに打ち込み名前を確認して借りられる。係員も本の背表紙を機械に感知させるだけで貸出の手続きができるのである。楽そうだ。



(大学入口にて)

図書館アラカルト

図書館の中には大小の机があり、本や論文に向かって勉強している学生の後姿は国境を越えて共通する何かを感じさせてくれる。
(工学部助教・ふじもとよしひさ)

大学祭期間中の閉館について

▽白山図書館

11月17日(木) ～ 11月21日(月) 閉館

▽朝霞分館

11月17日(木) ～ 11月21日(月) 閉館

▽工学部分館

11月10日(木) ～ 11月14日(月) 閉館

その他のお知らせについては、各館発行のパンフ、掲示等をご覧下さい。

ΚΟΣΜΟΣ (No.107)

1994年10月14日発行

発行人：今井光太郎

発行所：東洋大学図書館

〒112 文京区白山5-28-20

TEL 03-3945-7314

© 東洋大学図書館 1994